

## 関東地方におけるゴルフコースの 立地特性について

○油井 正昭（千葉大学園芸学部）

関東地方、ゴルフ場、立地、レクリエーション施設

### 1. 研究の目的

野外レクリエーション活動が盛んになるとともに、ゴルフを行う人の数は年々増加し、将来さらに増加することをレジャー白書が述べている。この状況を背景に、全国に1,600カ所を超えるゴルフコースがあり、現在も建設が盛んである。最近は、地域の自然環境への影響などから社会問題を提起しているが、土地利用的には、大面積のレクリエーション地であり、都市周辺部の緑地としての意義もある。本論は、関東地方におけるゴルフコースの立地特性を明らかにすることを目的とする。

### 2. 研究の方法

①関東地方のゴルフコースの紹介図書で、立地状況調査に活用できると判断した2種類の図書を選定した。②この図書を基に調査項目に、位置、開設年、ホール数、面積、利用制、コースの特徴、到達性、自然公園との関係を設定して調査を行った。③調査対象は、平成元年までに開設した全コースとした。④調査結果を基に作成した資料を解析し、関東地方におけるゴルフコースの立地特性の考察を行った。

### 3. 結果と考察

#### 1) 開設の時期区分と分布特性

関東地方における最初の開設は、大正3年で以後平成元年までに446コースが開設している。開設の変遷を年次別、都県別に整理した結果、大正3年から第二次大戦後の混乱期である昭和20年代末までの40年間は、わずか17コースの開設であった。したがって、429コースは昭和30年から平成元年までの35年間に開設した。この間の年次別開設数から、3回の開設ブーム期が確認でき、このブーム期を基準に次ぎの時期区分を行った。第Ⅰ期＝大正3年～昭和33年（29コース）、第Ⅱ期＝昭和34～39年（85コース）、第Ⅲ期＝昭和40～47年（66コース）、第Ⅳ期＝昭和48～53年（133コース）、第Ⅴ期＝昭和54～59年（45コース）、第Ⅵ期＝昭和60年～（88コース）。この時期区分の特徴は、1期が6～8年になっていることである。開設期別、都県別に整理したのが第1表である。ゴルフコースの最多は千葉県で107コース、最少は東京都で19コースである。

ゴルフコースの開設期別に分布図を描くと、第Ⅰ期の開設は神奈川県や東京都など南部の平野部が中心である。第Ⅱ期以降、開設時期が遅くなるに従い、北部の群馬県や

第1表 都県別のゴルフコース開設状況

| 都県名 | 単位：ゴルフコース数 |     |     |     |     |     | 合計  |
|-----|------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|     | 第Ⅰ期        | 第Ⅱ期 | 第Ⅲ期 | 第Ⅳ期 | 第Ⅴ期 | 第Ⅵ期 |     |
| 茨城  | 3          | 14  | 9   | 19  | 8   | 22  | 75  |
| 栃木  | 2          | 7   | 6   | 49  | 4   | 17  | 85  |
| 群馬  | 0          | 3   | 7   | 22  | 3   | 14  | 49  |
| 埼玉  | 4          | 17  | 10  | 11  | 10  | 9   | 61  |
| 千葉  | 4          | 20  | 19  | 24  | 15  | 25  | 107 |
| 東京  | 5          | 10  | 2   | 2   | 0   | 0   | 19  |
| 神奈川 | 11         | 14  | 13  | 6   | 5   | 1   | 50  |
| 合計  | 29         | 85  | 66  | 133 | 45  | 88  | 446 |

栃木県の丘陵地に開設されていった。この分布図に高速道路等の開通状況を加えたところ、分布の広がりや高速道路等の開通による、到達性改善が背景にあることが判読された。高速道路別では、関越高速道路沿線が最多で91コース、次いで東北と常磐の両高速道路沿線の83コースが多かった。

第2表 都県別・開設期別ゴルフコースの面積

| 都県名 | 開設期別  |       |       |        |       |       | 単位：ha        |
|-----|-------|-------|-------|--------|-------|-------|--------------|
|     | 第Ⅰ期   | 第Ⅱ期   | 第Ⅲ期   | 第Ⅳ期    | 第Ⅴ期   | 第Ⅵ期   | 合計           |
| 茨城  | 294   | 1,324 | 990   | 2,152  | 746   | 2,304 | 7,810(1.28)  |
| 栃木  | 140   | 752   | 661   | 6,826  | 452   | 1,721 | 10,552(1.65) |
| 群馬  | 0     | 323   | 716   | 2,747  | 242   | 1,493 | 5,521(0.87)  |
| 埼玉  | 382   | 1,607 | 828   | 1,064  | 938   | 864   | 5,683(1.50)  |
| 千葉  | 278   | 1,634 | 2,260 | 2,851  | 1,441 | 2,574 | 11,038(2.17) |
| 東京  | 287   | 746   | 193   | 190    | 0     | 0     | 1,416(0.66)  |
| 神奈川 | 782   | 1,154 | 1,542 | 713    | 572   | 93    | 4,856(2.04)  |
| 合計  | 2,163 | 7,540 | 7,190 | 16,543 | 4,391 | 9,049 | 46,876(1.45) |

注) 合計欄の( )内の数値は都県面積に対する比率(%)

#### 2) ゴルフコースの面積

① 1都6県のゴルフコース面積の変遷を第2表に示した。全体で約4.7万haであり、関東地方全域に対して1.45%である。

② 開設期別に、18ホール当たりのゴルフコース平均面積を求めたところ、第Ⅰ期は66ha、第Ⅱ期70ha、第Ⅲ期74haと次第に広くなり、第Ⅳ期以後は90ha以上となっており、開設期が遅くなるに従い、大面積化の傾向を示した。この背景は、建設地が平野部から地形変化の大きい丘陵部・山岳部に進んで行ったことや、各県のゴルフ場開発事業に対する規制への対応などが関わっていると思われる。

#### 3) ゴルフコースの特徴

① ゴルフコースの立地状況を分類すると、丘陵・林間コースが383コースで全体の約86%を占め、関東地方のゴルフコースの大半は丘陵部に成立していることを示している。

② 関東地方には、荒川、利根川など大河川が流れており、これら的大河川の河川敷に34コースが開設されている。全体の約8%に相当し、河川敷がゴルフコース立地に大きな役割を果たしている。最多は荒川で15コース、次が利根川で10コースと2河川に集中している。河川敷ゴルフコース面積の最大は埼玉県で、関東地方全体の5割以上を占めている。埼玉県は、河川敷に3コースの県営ゴルフコースを開設しているのが特徴である。

③ コースの利用制を整理したところ、446コースのうち389コース(約87%)は、メンバーシップ・コースであり、パブリックのタイプはセミパブリックを加えて、57コース(約13%)である。

#### 4) ゴルフコースと自然公園

関東地方の自然公園では、国立公園内に多く、特に富士箱根伊豆国立公園箱根地区には8コースが集中している。箱根の国立公園指定は昭和11年であるが、ゴルフコースの最初の開設は、大正6年にさかのぼる。箱根は、ゴルフの先進地として長い歴史がある。

#### 4. ゴルフコースの問題点

近年立地に関する様々な問題の指摘がある。主なものを列記すると、①大規模面積にもかかわらず、利用が少数に限定される、②閉鎖性の高い、③建設に当たり自然の改変量が大きく、地域の自然環境への影響がある、④維持管理に使用する農業による環境汚染が心配、⑤施設利用料金が低い、などがある。